

I お仕事体験の概要

1 実施に至る経緯

平成26年、27年（一社）柏崎青年会議所…（以下 JC）が取り組んできた「子どもお仕事体験教室」を平成28年度は、任意教育団体「お仕事体験塾実行委員会」を組織して取り組んだ。その成果として、「参加した子どもたちは職業体験をとおして、職業観、勤労観を醸成し、地域の活性化に繋げる」等の主旨で大好評だった。参加した子どもからは「大人になったら自分も柏崎で働きたい」等の感想が、また、見学に来た保護者や教員からも「ぜひ継続してほしい」という感想が多く寄せられその成果はテレビ、新聞等で紹介されたとおりである。

平成29年度柏崎市は、「ふるさとに誇りと愛着を持ち、夢と希望に向かってたくましく生き抜く児童生徒」を育むため、ふるさと柏崎の魅力とそれを語る人々の生き方を学び、柏崎の未来の活性化を図る人材を育成する「柏崎学」がスタートした。本年度は、教育委員会学校教育課の「柏崎学」の予算を活用しながら任意教育団体「お仕事体験塾実行委員会」を組織して「小学生お仕事体験塾」を実施することにした。

2 職業体験必要性の背景

柏崎市において、人口減やそれとかかわる若者の働き手不足が喫緊の課題である中、職業体験を通して柏崎の様々な優れた業種や素敵な先輩と触れあうことによって実感的に仕事について学ぶことが出来る機会が必要と考えた。児童は郷土や事業所に対する理解を深め、地元への愛着や誇りを持ち地域の活性化に繋げてもらいたい。このことが、少子高齢化が急速に進む柏崎にとって若年層の定着につながることを願っている。

また、職業体験には、児童が直接働く人と接することにより、実際的な知識や技術・技能に触れることを通して、学ぶことの意義や働くことの意義を理解し、生きることの尊さを実感させることが容易である。さらに、児童が将来の進路を考える態度や意志、意欲などを培うことのできる重要な意味を持っている。

望ましい勤労観、職業観の育成や、自己の将来に夢や希望を抱き、その実現を目指す意欲の高揚を図る職業体験は、これからの子どもたちにとって、より一層大切になってきている。

3 お仕事体験塾のねらい

「体験活動を通じて、自分の職業適正に気づき柏崎で働こうとする意欲を高める。」

ねらい1：地元の事業所が連携して未来を担う柏崎の子どもたちの人材を育成する役割を果たす。さらに、地域における企業イメージを高める。

ねらい2：実際の職業体験を通じて望ましい勤労観、職業観を身に付け生涯にわたり生きる力を育む。

ねらい3：職業体験で出会った様々な業種や人々との触れあいからふるさと柏崎への愛着と誇りを育てる。

4 お仕事体験塾の概要

（1）お仕事体験塾の準備段階

平成29年4月13日に実行委員12名による第1回実行委員会を開催しスタートした。

それ以降、延べ9回の実行委員会を開催した。主な活動は次の通りである。

- ・参加企業の誘致
- ・当日使用するテント、机、椅子等の物品の借用依頼

- ・教育委員会「柏崎学」予算の申請
- ・準備や当日の運営ボランティアの依頼
- ・柏崎市、柏崎市教育委員会への後援依頼
- ・参加を呼びかけるチラシ、ポスターの作成、当日の配付資料の作成

その他、各学校へのチラシの配布と参加を呼びかけるために全小学校の校長に働きかけを行った。さらに、同時に作成したポスターを市内公共機関に掲示し周知を図った。

また、実行委員会を中心に各事業所に出店を働きかけた。取組の成果として、屋内ブース25、屋外ブース15の計40の事業所から出店の協力をいただいた。夏場の熱中症対策として飲料水の提供ブース2事業所、ボランティアへの支援として1事業所から協力をうけた。

(2) 実行委員会の開催期間、場所など

- ・期間：平成29年4月～10月（9回実施 会場：市役所）
- ・時間：午後7時～9時）

(3) 出店事業所への説明会（6月29日に開催会場となるアルフォーレにて）

- ・賛同いただいた屋内ブース25、屋外ブース15の計40の企業・事業所が参加した。

(4) 児童への働きかけ

実行委員会が作成したポスターをもとに7月4日に柏崎刈羽小学校長会で説明を行い子どもたちへの周知と参加の働きかけを依頼した。その後、7月中旬に全ての児童にチラシを配布し参加を呼びかけた。

(5) 準備に関して（テント、机、いすについて）

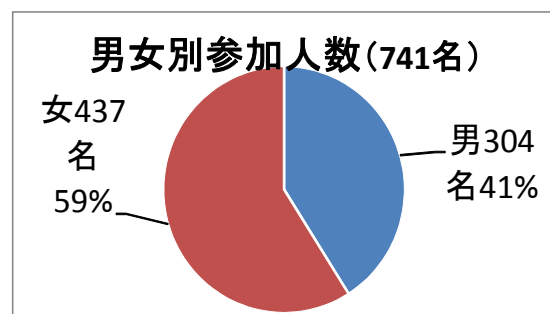
事前の準備として、8月17日に大洲コミセン、柏崎社会福祉協議会から、8月18日には比角小学校、柏崎小学校、第二中学校、よりテント、机、椅子、ホワイトボードを借用して、第一中学校生徒玄関脇ピロティに搬入して準備を整えた。

当日、午前6時から第一中学校から物品をアルフォーレに搬入してテントの設営を行い準備した。

5 お仕事体験塾の実際

(1) 期日、時間、会場

平成29年8月20日（日）
 時間 9：50～16：00
 会場 柏崎市文化会館アルフォーレ全館
 及びアルフォーレ駐車場



(2) 参加児童数

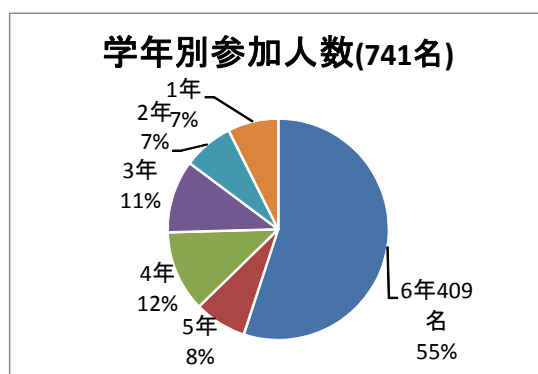
741名の児童が参加した。また、その内訳の男女別・学年別参加人数はグラフの通りである。引率した保護者、各ブースの企業関係者、ボランティアを含めると今回のイベントは1,200人を超える規模で開催した。

(3) 体験回数

児童の各ブースでの体験延べ人数が3,117名であったことから、一人あたりの体験回数の平均は4.2回であった。実行委員会では、体験回数を1人5回以上に設定したが目標達成には届かなかった。

(4) 体験の内容

各ブースでは、企業や事業所が工夫した体験活動が行われた。No.17の建築板金職人では、409名が体験した。体験人数を多くするため



に子どもたちにとって扱いやすい材料を工夫したことによって体験数が増えたと考えられる。

新たに出店いただいたNo.4 1 ラジオパーソナリティでは、柏崎でもアナウンサーの仕事が出来ることを初めて知った子どもが多かった。どのブースでも各企業の特徴を生かした仕事体験となった。このように、各事業所は子どもたちが楽しく体験できる工夫がなされた。

(5) 出店40事業所の職業名、体験名、体験人数

*No.1～No.26までは屋内ブース、No.27～No.42は屋外ブースで用意した。

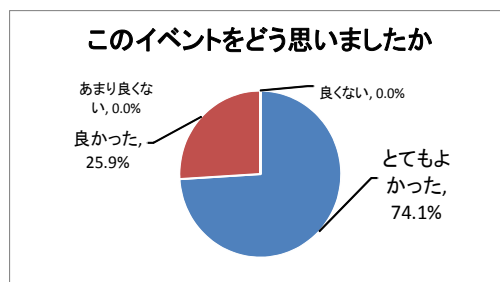
No.23,42ブースは、熱中症対策での水分補給で協力いただいたブース。

No.	職業名	体験内容	人数	No.	職業名	体験内容	人数
1	カフェ店員	ナポリタン作り	25	22	ライフセーバー	海の安全を学び AED を使う	91
2	視覚障がい介護士	目の見えづらい方の手助け	44	23	ビュッフェ (提供)	お水が飲める・有料でドリンクも	—
3	新聞記者	取材し新聞を作る	28	24	バーテンダー	カクテルジュース作り	40
4	エステセラピスト	人形を使ってマッサージをする	38	25	車いす介護士	車いすの方の手助け	80
5	美容師	エクステンション (付け毛) を付ける	137	26	看護師	オムツ替え、手洗い、注射、白衣	107
6	保育士	手遊び・歌遊び・読み聞かせ	89	27	インタープリター (自然ガイド)	自然、生き物の紹介	56
7	機械工	えちゴンの金属アクセサリー作り	88	28	和紙職人	ハガキの大きさの和紙作り	110
8	生け花の先生	花を生ける	40	29	警備員	警備棒、AED を使う 会場の警備をする	41
9	信金職員	しんきん窓口の仕事	59	30	石材職人	石の表札作り	34
10	ゆうびん屋さん	消印を押して手紙を届ける	120	31	電気工事士	高所作業車に乗る、 自転車で発電	86
11	防災指導員	災害ゲーム、防災工作をする	73	32	自動車整備士	車の点検をする	121
12	薬剤師	薬を作る、飲み方や使い方を伝える	29	33	介護タクシー運転手	福祉の車に乗る	64
13	税務職員	税金を受け取る、税を知る	70	34	建設スタッフ	建設機械に乗る	131
14	お花屋さん	花束を作る	28	35	技術系公務員 (土木)	パトロール車に乗る ・仕事内容紹介	91
15	和菓子職人	練り切りの上生菓子作り	97	36	消防士	消防の服を着る・放水する	35
16	室内装飾職人	ペン立て、ティッシュケース作り	111	37	警察官	指紋を採る・パトカーに乗る	51
17	建築板金職人	銅の板で工作をする	409	38	庭師	竹を縛って竹垣作り	96
18	小学校の先生	台本に沿って授業をする	97	39	大工職人	木で箸とコースター作り	56
19	市議会議員	子ども議会をする	40	40	左官職人	壁に土を塗る	114
20	ソフトウェア開発職	パソコンでプログラミングをする	46	41	ラジオパーソナリティ	ラジオでトークをする	60

21	観光案内人	柏崎の案内をする、お土産を売る	45	42	水素水の提供	お水が飲める・英会話ロボットの展示	—
						合計	3117

Ⅱ お仕事体験の結果（アンケートより）

お仕事体験塾の活動に参加した児童にアンケートを行い、382名の有効回答を得た。その結果から本イベントへの参加満足度は、とても良かった74.1%、良かった25.9%で肯定的評価が100%と高い評価だった。



1 地元の職業や人との触れあいは、柏崎で仕事をしたい心情を育てる

グラフは、子どもアンケートの設問「イベントに参加して柏崎で仕事をしたいと思いましたか。」で「思った」「思わない」を選択した人数で表している。

柏崎で将来仕事をしたいと感じている児童は86.0%であった。

地元の柏崎で仕事をしたいと感じている児童が全体で85%を越えたことは、「柏崎学」が目指す「ふるさとに誇りと愛着をもち、柏崎で住みたい働きたいと願う子供を育てたい」の目的が達成された考えられる。

今後イベントを継続することで、柏崎で働きたいと願う事が徐々に定着することが期待される。

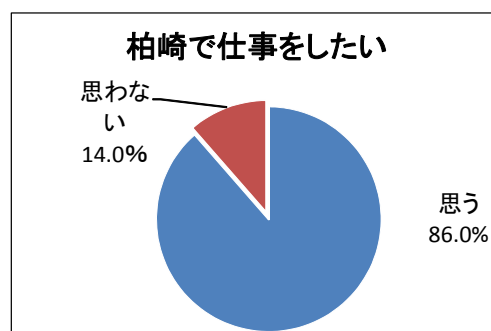


表 柏崎で仕事をしたいと「思う」理由の内訳 N=309

働きたい仕事がたくさんある	86	27.8%
仕事楽しさ、大変さが分かった	83	26.9%
地元が好き、家から近い	31	10.1%
ふるさとに役立ちたい元気にしたい	28	9.1%
優しい人がたくさんいる。頑張っている	19	6.1%
知らないことが分かった。役だった。	13	4.2%
体験に参加して働きたいことが分かった	12	3.9%

柏崎で仕事をしたい「そう思わない」理由

他のところで仕事がしたい（都会等）	20	6.5%
目指す仕事がない	13	4.2%

表は、柏崎で仕事をしたいと答えた理由、柏崎で仕事をしなくないと答えた理由を自由記述で回答した内容を分類したものである。

「柏崎で仕事をしたい」と答えた理由では、「いろいろな仕事がある」「今回の体験で仕事の楽しさ、大変さが分かった。」「地元が好き、家が近いから」「ふるさとに役立ちたい、元気にしたい」との回答が多く認められた。

今回の体験を通して「柏崎には様々な職業があること」「柏崎には目指

す仕事があること」を知るきっかけとなった。さらに、働くことの楽しさや大変さを実感として体験できたことも大きな成果といえる。また、「柏崎で役立ちたい。元気にしたい。」という記述も多く見られた。このように郷土を愛する意識にも目が向けられている。少子高齢化が進む柏崎市にとって、イベントで知った様々な業種や人々との触れあいが郷土への愛着に繋がり、将来柏崎で働き

たいという意識を高めたことにお仕事体験塾開催の意義がある。

以上の結果から次のような成果が認められたと考える。

- 地元の企業の人々との触れあいを通じて「柏崎には様々な職業があること」「目指す仕事があること」を知るきっかけとなった。
- 職業体験で出会った様々な人々との触れあいは、社会の構成員として共に生きる心を養い、郷土への愛着と誇りとなり柏崎で仕事をしたいと願う意識が高まった。

2 地元の事業所が連携して未来を担う柏崎の子どもたちの人材育成に寄与した

表 子どもたちが将来やりたい職業 (人数) 表は、子どもたちが将来やりたい仕事を表して

医療関係 (医師、看護師、薬剤師)	41	いる。最も多く希望する職業は、医療関係で41名が選択している。内訳は看護師が19名、医師が12名、薬剤師が9名だった。次に、教育関係も41名で保育士が30名、学校の教師が11名となる。建築(大工、電気、板金)27名、製造(和菓子屋、ケーキ屋、パン屋)23名、美容(美容師、理容師、ネイル等)22名、漫画イラストデザイン18名、公務員(警察、消防、市役所)15名、スポーツ関係10名、IT関係(パソコン)8名、介護関係8名、販売(小売り、花屋、飲食)6名、銀行、金融4名、人の役に立つ仕事8名、人を笑顔にする仕事4名、人を助ける仕事2名、未定30名。これらの業種は、今回のお仕事体験塾で体験することが出来る活動である。本イベントが子どもたちの将来への目標に大きく影響したと推察される。さらに、具体的な業種以外に「みんなの役に立つ仕事(8名)」「人を笑顔にする仕事(4名)」「人を助ける仕事(2名)」の記述が見られた。どの回答も建設的で、前向きな柏崎の子どもたちの状況が見られた。
教師、保育	41	
建築(大工、電気、板金)	27	
製造(和菓子、ケーキ、パン)	23	
美容(美容師、理容師、ネイル等)	22	
漫画イラストデザイン	18	
公務員(警察、消防、市役所)	15	
スポーツ関係	10	
IT関係(パソコン)	8	
介護関係	8	
販売(小売り、花屋、飲食)	6	
銀行、金融	4	
人の役に立つ仕事	8	
人を笑顔にする仕事	4	
人を助ける仕事	2	
未定	30	

以上の結果から次のような成果が認められたと考える。

- 仕事体験を通じて、地域の産業やそこに働く人々の素晴らしさを発見することが出来た。そのことが地元企業への親しみや愛着を持つ契機となった。
- 仕事体験は、自分自身に対する自信や可能性の発見と自分の将来について夢を持つ良い機会となった。

3 イベントに参加した児童の感想 (自由記述)

「このイベントに対しての感想を教えてください。」では、全体の62.1%の児童が「楽しかった。おもしろかった。」と感想の中で記述している。さらに詳細に見ていくと楽しかった要因を「いろいろな仕事があった。」15.2%「たくさん体験できた。」13.3%と記述している。イベントの評価の高さは、様々な体験を味わうことが出来たことで楽しさを感じる事が出来たことに起因している。今回40ブースの出店が出来たことが高い評価に結びついたと考えられる。

- イベントに参加したことで「楽しかった。おもしろかった。」の感想が多く認められたことから、望ましい勤労観、職業観の基礎に繋がったと考えられる。
- 実際に仕事をしている人と触れあい、自分自身も体験することで、働くことの意義や目

的の理解、自ら働こうとする意欲や態度を育むことができた。

- このお仕事体験から真剣に考えたことは、自分の将来のことです。
今まで自分の将来を真剣には考えていなかったのが今回を機会として考えました。
もう一つ考えたことは柏崎の事です。私は市の職員になりたいです。なぜなら市の発展のために力を入れ、人口を増やしたいと考えています。
- 私が一番心に残った体験は「車椅子の介護士」です。車椅子介護は、お年寄りに車椅子の操作を教えることや押してあげることも仕事です。ブレーキの操作、段差、階段やドアをあけること
柏崎市は、これから高齢化が進むと聞きました。もっともっと車椅子の介護士が必要となってきます。私は車椅子の人の役に立ちたいです。
- 信金の職員の方は「お待たせしました」「それでしたらこちらになります」「少々お待ちください」と言うときもしっかりとお客さまに向かって笑顔で話しています。
介護の人もパテシエの人も笑顔で接することで、お客さんを笑顔にしていることを知りました。
- 保育士の仕事はいろいろな個性のある一人一人の子と向き合うことが大変なことだと分かりました。今後少子化で保育士の仕事が少なくなるかもしれません。でも、将来ついでみたい仕事です。
- 心に残った体験は信金職員です。窓口で人に話しかけるときは、しっかりと話さないといけないことを学びました。
- 郵便局員さんは配達を間違えてはいけないことを、必死で仕事をしている気持ちを私たちに伝えてくれました。郵便局員さんはこの仕事が好きなのだと感じました。職業は自分がやりたいことを見つけることが大事だと思いました。
- いろいろ体験してよく分かった仕事は、「税務所」の仕事です。特に税金の仕組みや使われ方を決めるのが国会であることを知り役に立ちました。
- 私の母は学校の先生です。少しは学校の先生の仕事が分かっていたのですが、いつもと違う目線で授業を体験しました。「先生はこんなに大変だと言うこと」を、初めて知りました。
- 市議会議員の仕事は、「私たちが当たり前のように遊んでいる公園」は、議会で話し合いで作っていることを初めて知りました。議題で話し合った「映画館」が出来たらうれしく感じます。
- 看護師体験で、手洗いの大事さを学びました。私の手洗いでは光を当てる検査で汚れがまだあり驚きました。教えていただいた手洗いではきれいになりました。
- 私の将来の夢は、パーソナリティで柏崎の良いところをPRする仕事です。
- このお仕事体験で初めて「将来」について真剣に考えるようになりました。私は、市の職員になって柏崎の発展に力を入れ人口を減らさないようにします。
- 私は7つの体験をしました。仕事をする事で人のためになることを知りました。本当に良い体験でした。将来、自分が生まれ育った柏崎の人のために役立つ仕事に就きたいです。

以上の結果から次のような成果が認められたと考える。

- イベントに参加したことで「楽しかった。おもしろかった。」の感想が多く認められたことから、望ましい勤労観、職業観の基礎に繋がったと考えられる。
- 実際に仕事をしている人と触れあい、自分自身も体験することで、働くことの意義や目的の理解、自ら働こうとする意欲や態度を育むことができた。

- 郷土に愛着を高める感想が多く認められ、柏崎のために役立ちたいという意志が強く感じられた。
- 自分の将来について考える機会となったと、生き方を考える機会となった。

Ⅲ 出店事業所、業種の郷土への貢献

1 出店事業所、業種が協力して子どもたちを育てる

本活動については、各事業所が地域を活性化する。

6月29日に行われた 出店事業所の説明会で、「事業所間で力を合わせて、柏崎の未来の子どもたちを輝かせたい」という願いから、次のことを確認し共有し合った。

- ・仕事の大切さを伝える。
- ・働く工夫について伝える。
- ・各企業の成功体験を伝える
- ・柏崎で働く喜びを伝える。

柏崎の子どもたちに、柏崎を愛する気持ちを育てたいと願っている。

開催後の「アンケート」や感想では、全ての事業所が良さを感じる結果だった。

- ・子どもたちに柏崎の良さを知ってもらえた。
- ・自分たちの仕事を知ってもらえ、この仕事に就きたいと思う子がいてうれしい。
- ・このイベントに参加して良かった。等の意見が寄せられている。

出店事業所や業種は協力して柏崎を盛り上げ、子どもたちを育てたい考えています。このように、事業所も含め柏崎全体で「柏崎学」を進めている。



「出店事業所説明会 6/29」

2 各企業が子どもたちに果たした役割

子どもたちは柏崎で仕事をしたいと考える割合が約86%と非常に高い。その理由として「多くの職業が体験できた。」「各企業の人々が、優しく丁寧に教えてくれた。」「地元企業に親しみが生まれた。」「本格的な仕事ができ役に立った。」このように児童は、参加していただいた企業との触れあいを通して柏崎を愛する心情や勤労観・職業観が育っていったと推察される。

参加企業にとっては、地域と一体となって子どもを育てていこうとする地域貢献に寄与し、企業イメージ向上に繋がったことで満足する事ができた。

3 各企業からのアンケート結果

参加企業に今回のイベントに参加しての感想を聞いた。設問「今回のイベントに参加して良かったですか。」では、全ての企業から「大変良かった・良かった」の肯定的な評価をいただいている。

さらに、子どもたちの「柏崎への郷土愛」を育てた設問では、多くの企業・事業所から肯定的評価をもらった。一方、「思わない」が30%認められたことから郷土愛について説明不足があったといえる。

全ての事業所から「良い影響がある。」と回答をいただいた。

また、企業、事業所の感想では「仕事の魅力を伝えることが出来た。」「多くの体験をしていただいていた有意義だった。」と記載されていた。これらのことから、出店企業、事業所にとっても「お仕事体験塾」の活動が有意義であったといえる。

問1 参加していただいた感想は、どれに近いですか？

大変良い	良い	あまり良くない	良くない	
24	17	0	0	41

【肯定的評価の意見】

- ・自分たち自身も楽しく、子どもたちも楽しく体験できたようで喜んでくれ満足だ。
- ・たくさんのブースをまわり、子どもたちが生き生き楽しく参加していた。
- ・元気な柏崎を目指して、子どもたちの積極的な意見をいただく、素晴らしい機会になった。
- ・体験してくれた子どもたちから、柏崎の良い所や接客など、私たちの方が教えられるところが多くあった。
- ・子どもたちの感想には、「楽しかった」だけでなく、「声掛けや相手の気持ちになることが大事」などがあった。こちら側として気付いてほしい部分が伝わって良かった。
- ・我々の職業をPRする場や機会をなかなか持てなかったが、このイベントで大勢の子どもたちに発信することができた。
- ・地域の方とふれあう機会を持つことができて良かった。この仕事を身近に感じていただけた。

問2 ご担当のブースで、子どもたちの「柏崎への郷土愛」を育てたと思いますか？

とても思う	思う	あまり思わない	思わない	合計
3	26	12	0	41

【肯定評価の意見】

- ・地元柏崎の会社の体験ができたので。今後は、もっと柏崎色を出せれば良いと思う。
- ・柏崎で働きたいと言う子どもが多かった。
- ・友人の子どもが「参加して1番楽しかった」と言っていたそうで、とても嬉しかった。
- ・この仕事は生活になくなくてはならないものである。子どもたちに少しでも、携わったと自慢してもらいたい。
- ・どのような想いで仕事をしているかについて、しっかりと伝えられたと思う。
- ・郷土愛を育めたかと言えば疑問があるが、柏崎のことに興味を持ってもらうのに、少し役立てたと思う。
- ・体験の内容としては柏崎にはあまり関係のないものだったが、柏崎にはこんな企業があるんだなあと思っていただければ、それはそれでよかったのかなと思う。
- ・この体験を通じて、将来この仕事を目指したいと思ってくれたら幸いだ。
- ・柏崎でもこの仕事ができるということを、知ってもらえたと思う。

【あまり思わない】の意見

- ・「柏崎」と強い印象を与えるものではないため、体験塾が郷土愛につながるかは不明。
- ・全国共通の仕事なので、郷土愛を育めたかどうか疑問だが、伝統文化の心を発信できたと思う。

問3 担当のブースで、自分たちの姿を見せることにより、子どもたちへ「働くこと」に対する想いを伝えられたと思いますか？

とても思う		あまり思わない	思わない	合計
8	30	3	0	41

【肯定的評価の記述】

- ・「お母さんにマッサージしてあげる」と言っていた子がいた。少しでも、誰かにしてあげたい！と思ってもらえたことが嬉しい。
- ・若いスタッフが、普段の仕事の様子を子どもたちに生き生きと見せていた。その楽しさを、子どもたちが感じ取ってくれたのではないかと思う。
- ・安全に対する姿勢の大切さを伝えた。 ・子どもたちの目が輝いていた。
- ・「好きなこと、楽しいことを将来の夢に！」という話は伝えさせてもらった。
- ・なかなか認知されていないジャンルの仕事なので、少しでも小学生がイメージすることができたのではと思う。
- ・「この仕事はすごい」「なりたい」と1人でも思った子どもがいて、職人として嬉しかった。
- ・参加したスタッフも真剣に緊張感を持って子どもたちに接していた。私たち自身にとっても良い経験をさせていただいた。
- ・なかなか分かりにくい仕事なのだが、ほんの一部でもどんな仕事をしているのか、分かってもらえたと思う。
- ・働くことの難しさ楽しさ大変さを伝えられたと思う。
- ・楽しい、面白い、かっこいい、何でもいいので感じてもらえれば、将来の選択肢の一つになるだろうし、いずれ想いを理解してもらえと思う。
- ・いろんな仕事内容があることを伝えられたと思う。
- ・商品の提供、体験が主となっていた。次は「ものづくり」企業としての趣向を凝らしたブースも考えたい。

問4 来年も本事業が開催される場合、出店したいと思いますか？

したい	したくない	その他	合計
33	0	8	41

「その他」と回答した事業所の意見

- ・数年に一度くらい参加したい。参加するなら、もっと簡単なオペレーションで。
- ・同業の他の事業所からも参加してもらいたい。
- ・会場等のリクエストに対応（改善）いただければ。

【お気づきの点の自由記述】

- ・良い1日になった。ありがとうございました。
- ・お仕事体験塾の主催者、参加者の意気込みが感じられた。
- ・例年よりブースへの参加者が多く、多くの人に体験していただけた。
- ・受付ボランティアが非常に良く働いてくれて、感謝している。
- ・予約受付が難しい。5人グループが多く、4人受付のところ1人多く入れてもらった。子どもによってかかる時間が違っていたので、早く終わった時は、予約なしで入ってもらったこともあった。
- ・会場が広かったのも、他のブースと換わっても良い。
- ・ボランティアスタッフに受付を担当していただき、感謝している。来年はぜひ昼食を提供してあげてほしい。

- ・机・椅子が要望の数に足りなかった。足りなければ、連絡がほしかった。
- ・受付を担当してくれたボランティアの方が、とても気の付く方で、対応もすごく良くて大変助かった。
- ・トイレが少なく、仮設トイレを用意できないか。
- ・もう少し、男女共楽しんでもらえる設えができれば良かった。
- ・役員、担当、ボランティアの方、ごくろう様でした。
- ・雨天の場合は、作業が難しいと思う。今回初めての参加だったが、優秀なボランティアさんをつけていただき、ありがとうございました。
- ・出店者向けの駐車スペースの確保。荷物の搬入出の際は、近くにあった方が良い。

IV ボランティア等の協力

【ボランティア、協力者の内容】

1 準備等 借用物品のの搬送作業

(テント18張、長机60台、椅子120脚)

- ① 16日 物品搬入準備 実行委員、青年会議所 30名
- ② 17日 学校教育課職員 6名 学校借用物品の搬送
- ③ 20日 当日午前6時～よりテント、長机、椅子の搬送 40名
- ④ 20日 活動終了後 午後5時～ 搬出作業 学校教育課 6名
- ⑤ 21日 学校教育課 6名 借用物品の返却



「ボランティアの皆さんの作業の様子」

2 当日ボランティアの概要と主な流れ (社会福祉協議会 ボランティアセンターの働きかけ)

- ① 実行委員会出席
ボランティアの日程、内容、もちものなどを確認
- ②周知
 - ・サマーチャレンジボランティアへ組み込み
 - ・各高校へポスター配布
 - ・常盤高校⇒食物部と子どもの発達保育選択者へ
 - ・総合高校⇒ボランティア委員会へ
 - ・工業高校⇒進路指導の先生へ
- ③参加とりまとめ
参加希望の方には、案内文にて集合場所や持ち物等を周知
10日前程からは、人数の状況をみて昨年の参加者に声をかけ働きかけた
- ④コーディネート
ボランティア経験者、年齢などをふまえてあてはめる
※人数をふまえて、社会人の方、高校3年生、昨年参加者を外ブースに配置した。
- ⑤当日
ボランティアの受付、見守り
- ⑥常盤高校へふりかえりシートの提出を依頼

【常磐高校の担当者の感想】

○ 常磐高校 担当者ふりかえり

- ・担当するブースによって、作業の量が異なるので、なにか工夫が必要かもしれない。
(混雑しないブースは、人数を数えるのみになってしまい、暇疲れしている様子がすこしみられた)
- ・高校生が、こちらからなにも指示をださなくても、自分達で工夫（ホワイトボードを使って予約をする、小学生に合った声掛けをする等）をされていてよかった。
- ・「自分の将来に関係があるブースにつきたかった」という声が多数あった。
- ・高校生と企業の方が交流する場面がたくさんみられ、高校生にとっても社会勉強になったのではないかと思う。
- ・一般ボランティアだけではなく、教員ボランティアの方がいたことは大きかったと思う。混雑が予想されるブースや人手が不足しているブースを上手く回せることができた。

【常磐高校生徒の反省感想】（ボランティアとして活動）

- ・受付の仕事をするのは初めてで、わからないこともたくさんあったけどそのたびに自分なりに工夫して解決したり、企業の方に質問したりして実りのある時間だった。
- ・初めてのボランティアだったけど、企業の人や、小学生ともたくさん触れ合うことができた。企業の人とお話して働くことについても知れた。
- ・観光案内の人とお話できてよかった。小学生の子が私が想像していた以上にしっかりしていてすごいなと思いました。
- ・自分の意志で行ったというわけではなかったけど、ボランティアを実際したら楽しくて、いろいろな仕事があるということを実感できとてもよかった。
- ・すごく楽しかったです。人と関わるのが好きになりました。
- ・普段小学生と関わる機会がなかったので、今回関わることができて楽しかった。
- ・まわりの方達が親切にしてくれたので、よかった。「こういう場合はどうするのか」など、疑問に思ったことを聞いてよかった。緊張して顔が少しひきつってしまった。
- ・予約をする人の列と予約をした人の体験待ちの列を分けて並ばせることが上手くできなかった。たくさんの方がきて少し大変だったけれどとても楽しかった。
- ・小さい子とたくさん話せて楽しかった。長時間だったけどあつという間に感じた。自分も楽しみながらボランティアができてよかった。
- ・受付の予定だったけど、人手が足りなくてお手伝いにまわったけど、小学生の子たちとコミュニケーションをとりながら楽しくすごせてとてもいい経験になりました。幼稚園教諭を目指している私としては、子供たちになんと声をかけたらやる気を出してもらえるのかとか、どうやったらかんなの危険さが伝わるのかとかを学ぶことができたのでよかったです。
- ・職人さんや市内のボランティアの先生方などとたくさんお話しすることができてよかった。あまり子どもと関わることは多くなかったけど、たくさん仕事をみることでよかった。
- ・ボランティアとして活動してみて、1番思ったのは大変だったということ。小学生にどんなことをしているのかと聞かれたときに、小学生に分かるように説明するのがすごくむずかしかった。また、一緒に活動していた社会人の方々のすごさに驚いた。どんな時も笑顔で、小学生と遊んだり、話したりしていて、さすがだと思った。私はつかれるとすぐに顔に出てしまうので、社会人の方々を見て、マネしようと思った。

- ・子どもたちが積極的にお仕事体験する姿を見れて良かった。自分もがんばらなきゃいけないなと思った。初めはかなり緊張したけど、自分にとって良い経験ができた。
- ・子どもと関わってボランティアをするのが初めてでした。自分から声をかけづらい子や、やりたいけど自分からは恥ずかしがって言えない子に、「体験やりませんか」と声をかけてあげられたのでよかったです。
- ・はじめてお仕事体験塾に参加して、小学生が楽しそうにしている姿や手伝いをしていてありがたいと言われてうれしかったので、参加してよかったです。

【自分の体験した活動に対する意見や要望】

- ・体験時間が 60 分以上のブースだったので、準備に時間がかかったり、児童をたくさん待たせてしまいました。混雑が予想されたり、毎年希望者が多いブース、定員が少ない所は事前に学校でだれが参加するか決めてしまった方が良いと思いました。
- ・人気なところは、やる回数を増やすか、定員数を増やせばもっとたくさんの人が体験できると思った。
- ・観光案内の人がとても優しく親切にしてくださいました。
- ・ライフセービングのことは何もしらなかったけど、横で見てて、すごい仕事だなと思ったし、楽しかった。
- ・自分の将来の夢にちかいブースで受付をすることができたらもっと楽しいなと思いました。
- ・体験するブースの希望を取ってもらえるとよりよかったです。(多数あり)
- ・長いもので 60 分もあったものがあって、時間がかかるといってあまり人がこなかったもので、各ブースが短時間で出来るものが良いと思った。
- ・予約がすぐにいっぱいになってたくさんのブースに行けた人とそうでない人がいた。

V お仕事体験塾 次年度に向けて

1 お仕事体験塾の運営について工夫と課題

(1) 運営全般について

- 参加した児童や引率した保護者が気持ちよく体験できるシステムを目指した。
- 「自動的」に参加できる仕組みではなく、参加児童自身が、情報を活用して体験していくシステム方針にした。
 - ・三色方式・抽選の導入・インフォメーション・モニタ
 - ・「キャスト」としての教員ボランティアの活躍してもらった
 - ・児童、引率者、一般ボランティア、教員ボランティア各配付資料の作成したことで円滑な運営ができた。

(2) 当日の説明

- 予約が1回先までということは、予約の仕方が難しいという印象を与えることや、その通りにならなかったときに、苦情が出る可能性があるかと判断した。それで、当日参加した児童には、あえて伝えなかった。従って、予約を先まで受け付けたブースが出て、「約束が違う」という苦情は出ないはずである。
- オープニングで参加者に運営について伝えことで円滑に実施できた。
 - ・空いている体験を探して、たくさん体験する。午前で2回を目標にしてほしい。
 - ・会場は走らず、落ち着いて体験すること。
 - ・1つのお仕事を体験するのは1人1回限りである。

- ・予約した体験は参加すること。
 - ・受付で説明をよく聞いて体験すること。
 - ・青、黄、赤の表示やテレビの案内をよく見て、たくさん体験できるように考えること。
 - ・予約受付の時は、名前（省略可）を書く。
 - ・分からないことは、名札を付けているスタッフに聞くこと。
- (3) 抽選
- ・混雑する和菓子体験は、抽選で行った。さらに、教員ボランティアを2人配置した。
 - ・くじには、JCの柏崎カルタの絵と言葉を入れて作成し、当たりくじには、体験人数までの番号を記入した。
 - ・整然と並び、抽選をし、はずれくじが、会場にゴミとして捨てられることもなかった。
 - ・グループで並んでいた人の中には、一人がはずれたので、近くの人にそっと渡している姿があった。このような姿を推奨していく。
 - ・抽選の場合は、2人組、3人組でも当選した人だけが体験できることを事前に説明した。
- (4) インフォメーション・モニタ
- ・体験名を三色に色分けして、モニタで表示した。
 - ・取り扱う先生の携帯番号を知らせ、
 - ・微細情報を書き加えてもらった。
 - ・立ち止まって、モニタをよく見て行き先を考える姿が多く見られた。
- (5) 企業へ説明
- ・企業への説明会の時に予約方法を伝達できればベター
 - ・1回の体験人数、5人が総入れ替えのブースト5人までで随時入れ替え可能な店があった。
- (6) 一般ボランティア
- ・参加態度が素晴らしかった。
 - ・各自、ホワイトボードを活用してインフォメーションを工夫する姿があった。
 - ・付箋、紙、受付用紙を説明会の時に配付する。
 - ・店の名前は、テントを立てた後に、実行委員で表示しておく。
 - ・ボランティアはきちんと説明したが、企業側の強い要望で、予約を先まで入れて運営することになった店があった。
 - ・高校生ボランティアには、事前に担当したいブースを書いてもらってはどうか。
- (7) 教員ボランティア
- ・事前に打ち合わせ会を行った。予約、抽選で大きな活躍をしていただいた。
 - ・アルフォーレ1階、アルフォーレ2階、屋外の3グループをつくった。
 - ・各ブースに色画用紙の表示（青・黄色）ホワイト・ボード、マーカーを配付してもらった。
 - ・受付後、開会式会場に誘導をしてもらった。
 - ・運営がスムーズに進んでいるか各ブースを回ってもらった。
 - ・予約を先まで受け付けているブースを見付け、修正指示を出していた。
 - ・抽選の説明、運営をしてもらい、混乱無く和菓子体験ができた。
 - ・あらかじめ設定した体験時間を超えているブース等、実行委員さんの助言を得ながら予約から抽選に変更した。
 - ・予約が1回先までということは、当日の説明では、理解が難しかった。

2 お仕事体験塾の成果と課題

(1) お仕事体験活動の成果

- お仕事体験活動を通じて働くことの楽しさや意義、目的を理解し望ましい勤労観、職業観の基礎に繋がった。
- お仕事体験活動で出会った様々な業種や人々との触れあいから郷土への愛着と誇りが育ち柏崎で仕事をしたいという願う意識が育った。
- お仕事体験活動で、参加事業所やそこに働く人々が一体となって、柏崎の未来を担う子どもたちを育てていこうとする意識の高まりが感じられた。特に柏崎の未来の子どもたちを輝かせたいという願いが強く感じられた。
- 参加した事業所は、子どもたちへの体験から活動への強い満足度が感じられ次年度も参加したいという声が寄せられている。



(2) 次年度に向けての課題

- 実行委員会の運営・組織
 - ・本年度、教育委員会「柏崎学」推進事業として予算を活用して計画運営した。来年度も予算的な裏付けが必要である。
 - ・実行委員の12名で運営したが、物品の借用や設営準備、後片付けを含めてスタッフの増員による組織的な取組が必要である。
 - ・ボランティアの依頼と運営の見通しについての周知徹底を図る。
- 出店企業、事業所について
 - ・子どもたちのニーズから、可能な限り多くの出店を働きかける必要がある。
 - ・当日の運営（予約方法・体験人数等）について、事前の説明を詳細に行う必要がある。
 - ・必要経費について、材料費等を手当てしなければならないことを感じた。
特にテント、長机、パイプ椅子は学校や公共機関から借用している予算的な措置が必要である。
 - ・ブースの場所について事前打ち合わせが必要である。

まとめ

8月20日(日)小学生お仕事体験塾が柏崎文化会館アルフォーレで小学生741名が参加して開催しました。このイベントは、「柏崎で働く大人の思いに触れ未来の柏崎を生き生きさせよう。」という願いを込め柏崎市、柏崎教育委員会が後援していただきました。

出店いただいた事業所、業種の皆様、ボランティアとしてご協力いただいた皆様、さらに全面協力いただいた柏崎教育委員会、青年会議所の皆様に心より感謝申し上げます。

充実したお仕事体験塾！

この「小学生お仕事体験塾」は、平成26年にスタートし4年目になりました。本年度は教育委員会の「柏崎学」の予算的な支援を頂き、体験職業がこれまでの介護士、信金職員、郵便局員、保育士、学校の先生、市議会議員、薬剤師、和菓子職人などに加え、造園、バーテンダーなど10業種加わり40業種に増えアルフォーレの屋内、屋外の駐車場を含め会場全体で行われました。

将来柏崎で働きたい86%！

取り組みの成果として、報告内容にあるように参加児童数が741名と昨年より200名増え、「柏崎で仕事をしたいと思いますか。」の問では、86.0%の子どもたちが柏崎で仕事をしたいと答えています。アンケート結果や子どもたちの感想のように、仕事体験を通じて働くことの意義や意味を理解し勤労観、職業観が身につけてきています。さらに、「柏崎で働きたいですか86.0%」と答えていることから、柏崎への愛着と定住の意欲が芽生え始めていることが推察されます。一方、体験の方法を工夫して、柏崎への貢献意識をより高めることが今後の課題です。

柏崎市では人口減少が激しく、特に若年層の定着が課題です。教育大綱「ふるさとに誇りと愛着を持ち夢と希望に向かってたくましく生き抜く児童生徒」を育てる「柏崎学」がスタートしました。

「小学生お仕事体験塾」の活動によって、子どもたちは柏崎には将来働きたい仕事があることを知り、柏崎には素敵な人々がたくさんいることを知り「未来を担う人材育成」に寄与したと考えています。

主催 お仕事体験塾実行委員会

実行委員長 田中 有人

実行委員 岸 剛史 山田 大介 岩間 一博 尾崎直美 山崎 健太
飯塚かれん 牧 匡尚 前澤佳奈子 山田 智 滝澤 豊 若林 勝

※ 私たち実行委員会では、「お仕事体験塾」の活動から、子どもたち一人一人が働くことの意味を実感し、郷土を愛し誇りに思う心情を育て生涯にわたって生きる力を身につけ、柏崎のすばらしい人材となってくれることを願っています。

この報告書を基に、何らかの形で「小学生お仕事体験塾」を発展、進化、継続させていくことができれば、この上ない幸せです。